vinetur

ボナムズ香港、ダルモア62年を競売へ　世界12本のうちの1本

The Ardross Estateはアジア初の公開競売に出品され、予想落札価格は280万～380万香港ドル

2026年11月12日（木）



ボナムズ香港は、The Ardross Estateとして知られるThe Dalmore 62 Year Oldを11月21日のライブオークションに出品すると発表した。同競売会社によると、このウイスキーがアジアで公開競売にかけられるのは初めて。予想落札価格は280万～380万香港ドルで、湾仔で開催される高級コレクターズウイスキーの競売を代表する目玉となる。

同社によると、このボトルは世界で製造されたことが確認されているわずか12本のうちの1本。2002年に初登場したThe Dalmore 62 Year Oldは、その熟成年数、希少性、生産数の少なさから、スコッチウイスキーのコレクター市場で最上位に位置する、最も人気の高いボトルの一つと長年みなされてきた。

ボナムズによると、このウイスキーは元マスターブレンダーのRichard Patersonが、1868年から1939年の間に蒸留された4つの歴史的な原酒から造った。厳選したMatusalem Oloroso のシェリー樽でブレンドし、最も若い原酒も62年間熟成させたという。同社によると、12本それぞれには蒸留所の歴史や人物、名所にちなんだ異なる名前が付けられ、Patersonの署名が入っている。

香港に出品されるボトルの名称は、スコットランド・ハイランド地方のThe Dalmore蒸留所にゆかりのある歴史的な土地、The Ardross Estateに由来する。Cromarty Firthを望むこの地にちなんだ名称も、コレクターにとっての魅力を高めるとボナムズは説明する。The Dalmore 62 Year Oldは、それぞれが一律の生産ロットの一部ではなく、独立した作品として提示されている。

11月21日の競売は、Queen’s Road East 50番地のSix Pacific Placeにあるボナムズ香港で開催される。同社によると、希少なスコッチウイスキーと日本のウイスキーを中心とする競売で、ほかにも国際的な買い手の関心を集める目玉商品が複数出品される見込みだ。

日本のウイスキーの目玉の一つは、予想落札価格180万～280万香港ドルのYamazaki 50 Year Old 2007年版。ボナムズはこのほか、1960年蒸留のKaruizawa 47 Year Old Cask No. 5627を出品する。容量は250ミリリットルで、予想落札価格は60万～90万香港ドル。Yamazaki 35 Year Oldの予想落札価格は40万～55万香港ドルとなっている。

ボナムズによると、Karuizawaの出品ボトルは、閉鎖した日本の蒸留所で造られ、現存が確認されている中で最も古いヴィンテージの蒸留酒から取られたもので、元チーフブレンダーのOsami Uchiboriが瓶詰めした。閉鎖した日本の蒸留所のウイスキーが引き続き高値で取引される市場において、こうした背景は関心を集めそうだ。

同社は11月18日から12月3日まで、希少な蒸留酒を対象としたオンライン競売も開催する。出品商品には、予想落札価格24万～34万香港ドルのBlack Bowmore 50 Year Old Final Cask, 1964、牡丹と蝶をあしらった円筒形の九谷焼風ボトル入りで、予想落札価格18万～26万香港ドルのHibiki 35 Year Old、そして1963年蒸留のKaruizawa 50 Year Old Cask No. 5132（予想落札価格16万～22万香港ドル）が含まれる。

ボナムズのワイン・スピリッツ部門グローバル責任者、Amayès Aouliは声明で、ウイスキー市場の最上位では、希少価値の高いボトルへの需要が続いていると述べた。また、同社は5月、Yamazaki 50 Year Old Club NatsumeとKaruizawa 52 Year Old 1960 Single Cask No. 5627 Treasure Shipの販売で日本のウイスキーの世界記録を2つ樹立したと指摘。The Dalmore 62 Year Oldにも同様の注目が集まると見込んでいると述べた。

ボナムズのアジア担当ワイン・スピリッツ部門責任者、Terrence Tangは、アジアのコレクターが最高級スコッチウイスキーの市場を引き続き大きく支えていると述べた。The Dalmore 62 Year Oldを香港に出品することで、地域の買い手はこのカテゴリーを代表する著名なボトルの一つを公開競売で競り落とす貴重な機会を得るという。